

戦争と国家、そしてナショナリズム

福田 宏 hfukuda@juris.hokudai.ac.jp

<http://hfukuda.cool.ne.jp/hokudai04a/>

(法学部 321 号室・706-3784)

(相談時間： 7/8(木) 15 時～17 時)

I. 第 2 回レポート締切 (本日)

II. 最終レポート締切は、7 月 27 日(火) 17 時 (事務室前レポート・ボックス)

III. 来週 7/9 は「人道的介入」をめぐる自由討論

最上敏樹『人道的介入 —— 正義の武力行使はあるか』

岩波新書(新赤 752), 2001 年. 入荷済み.

報告者 6 名、各グループ司会 3 名、コメンテーター 3 名

IV. グループ討論の続き —— 「論壇」を題材として

- ・ 山内昌之「イラク復興のシナリオと日本の選択 —— 『大中東』構想と自衛隊の役割」『中央公論』 2004 年 7 月号, pp.92-103.
- ・ 篠田英朗「人質事件で露呈した日本の国際平和協力の限界」『論座』 2004 年 6 月号, pp.36-47.
- ・ 中西輝政「国際テロ組織と『次なる試練の時』」『諸君!』 2004 年 6 月号, pp.36-49.

V. 旧ユーゴ紛争についての続き —— コソヴォを中心に

1. 民族という存在

西ボスニアの町ヤイツェ (人口 3929 名、内カトリック教徒 1982 名、イスラム教徒 1644 名、セルビア正教徒 245 名、ユダヤ教徒 57 名。1895 年)

地理学者ハインリヒ・レナの観察 (カトリック教会のミサ) —— 教会は広々としていて、天井も高いが、ベンチはあまりおいてなくて飾りもなく、まるでモスクにいるようだ。... 信徒は教会のむき出しの石の上にしゃがみ、ひざまずき、あぐらをかいて座る。... 皆そこではカトリック教徒を示す赤いターバンを脱ぐ。すると珍しいものが見える。つまり、皆イスラム教徒のように頭を剃って、真ん中だけ一房の髪を残している。弁髪のようにしている者もいる。中国とトルコの混淆! さらにイスラム的なのは、司祭が聖変化の時に聖体顕示台を掲げると、信徒たちが額を床にこするつけることである。... 彼らに特徴的なことがまだある。彼らは入れ墨をしているのである。入れ墨の場所は、胸、前腕、手、時に額のこともある。その形は十字架のことが多い。... カトリックの司祭たちは、目に付きやすいところに十字架を刻印することで、イスラムへの改宗を困難にしようとしたのではないだろうか。... (大津留『ハプスブルクの実験』 pp.61-62)

2. 微差のナルシシズム（フロイト）と自らへの不安（アドルノ）

A. 1991年夏、サラエヴォ郊外のホテル・ボスニアで開催された円卓会議にて。

（6共和国すべての政党が参加）

クロアチア系参加者：スロヴェニア語とマケドニア語の通訳が付くのは結構ですが、他の言語に対する配慮はどうなっているのでしょうか。たとえば、ハンガリー語やアルバニア語は？

セルビア系の主催者：他の言語にも通訳を付けたいのはやまやまですが、この会議の費用はすべて我々〔セルビア系〕民主党が負担しているという点も一つご理解願いたい。我が党の資金には限りがあります。...

再びクロアチア系参加者：言語の平等という点では、私はクロアチア語の同時通訳も要求したい！〔爆笑の渦〕

サラエヴォからの参加者：〔大真面目に〕私はボスニア語への通訳も希望する！〔再び爆笑〕（ミーシャ・グレニー『ユーゴスラヴィアの崩壊』208-209頁）

B. 1991年3月10日、ベオグラードの学生デモにて。

「僕の専攻は工学、コソヴォの出身だ」長身の眼鏡をかけた一人の〔セルビア系〕学生が、やや舌をもつれさせながらこう言った。「...ユーゴスラヴィアのすべての問題の元凶はセルビア人だ、と世界中が思い込んでいる。今こそ僕たちは本当のセルビア人が自由と民主主義と平和を愛しているということを、全世界に証明する必要がある」と。（グレニー、同書、81頁）

3. コソヴォ紛争 —— 「人道的介入」の正当性

1981.春	コソヴォで暴動発生 —— 発端は学生食堂
1987.4	ミロシェヴィッチとコソヴォとの出会い
1989.3	セルビア共和国の憲法修正。コソヴォ自治州の権限縮小
1989.6.28	「コソヴォの戦い」600周年式典に25万人のセルビア人が参加
1997.11	アルバニア系の「コソヴォ解放軍KLA」が警察襲撃
1998.9.30	ドレニツァ地区でアルバニア系住民約30名の虐殺遺体を発見
1999.1.16	ラチャクでアルバニア系45名の虐殺遺体を発見
1999.2	ランブイエ合意
1999.3.24	NATOが空爆開始
1999.6.3	ユーゴが和平案受諾

- ・ミロシェヴィッチの転身 —— 共産主義者から民族主義者へ
- ・「コソヴォ解放軍KLA」とセルビア系警察との戦闘
- ・NATOによる空爆の正当性 —— 78日間、約34,000回

VI. ユーゴ紛争に関する参考文献（補足）

- ・千田善『なぜ戦争は終わらないか —— ユーゴ問題で民族・紛争・国際政治を考える』みすず書房, 2002.